第６回多摩市子ども・若者に関する施策検討懇談会　会議録

１　日時　　令和元年８月 20 日（火）19：00～21：00
２　場所　　多摩市役所　特別会議室
３　出席者　　木下委員（会長）、元井委員（副会長）、吉永委員、河野委員、福田委員、奈和良委員、倉吉政策監

４　開会・資料・紹介

○会長　　第 6 回多摩市子ども・若者に関する施策検討懇談会を始めたいと思います。本日、委員の皆様全員出席でございますので会議は成立いたします。また、傍聴について許可します。
　では、まず事務局より配布資料について説明お願いします。

（事務局より配布資料について説明）

　ありがとうございました。本日、最終回ということなので前回提示しました報告書案を再度活用しながら市の職員や市長にも話にご参加いただき、市としての具体的な支援の内容等を確認していただいたあと、皆様にお配り致しました懇談会報告書案について忌憚ないご意見をいただければと思います。また、すでに前回委員の方々より頂いたキャッチコピー（タイトル案）を私なりにまとめてみましたのでそちらについても意見をいただければと思います。

５　検討

○会長　　では、前回出たキャッチコピーの案に基づいてまとめました。(「ザ・チャレンジ　多摩　子どもや若者だれもが自分らしく幸せに生きられる Well being をめざして」) こちらの案に関して再度委員の方々より出していただいた案を見ながら意見を頂きたいと思います。
　そしていま考えたのですが、ザ・チャレンジ　多摩をザ・チャレンジたま結びにしたらいかがでしょうか。表記は平仮名の方がいいですか。

○副会長　　素晴らしいですね。

（全委員賛同）

○会長　　では、表記は平仮名の方がいいですかね。それとも結ぶを漢字に表記しますか。

（画面に２パターンのたまむすび（たま結び）を表記し、検討）

○副会長　　平仮名の方がきれいにみえますね。むすびが「おむすび」を連想するの

で、漢字（結び）にしたらどうでしょう。

○会長　　では、「たま結び」をタイトルに追記しましょう。皆様よろしいでしょうか。

（全委員賛同）

○会長　　では、タイトルは「ザ・チャレンジ　たま結び　子どもや若者だれもが自分らしく幸せに生きられるWell beingをめざして」にさせていただきます。
　次に、報告書については概要版含めいままで話し合って出てきた意見をまとめ作成致しました。また、この報告書は子ども・若者に届くように呼び掛けるような文章で作成してみました。この報告書についてなにかご意見ございませんか。

○事務局　　報告書に何度も使われている子ども・若者育成支援の「支援」という言葉の使い方についてもう少し慎重に考えた方がいいのではないでしょうか。子ども・若者を主体に考えたときに「支援」という言葉の使い方は不完全な気がしました。

○会長　　今まで、「支援」という言葉を当たり前に考えて使用しておりました。確かに子どもや若者が自立するためのサポート（支援）は必要であるが、子どもや若者それぞれ一個の人権であり尊重するべきであるため、子ども・若者主体性を損なうような支援はしてしまうことはならないと考えます。そのため、注釈を加えてここで意味する「支援」の意味を記載しましょうか。
その他の委員の方、「支援」についての表記の仕方についてどうお考えでしょうか。

○委員　　この報告書で意味している「支援」には若者同士のお互いの「支援」といった意味も含まれていると思うのでそういった意味も記載した方が良いかと思います。

○会長　　それも記載しましょう。また、この報告書の概要版としてA4判裏表で分かりやすいように作成しようと思います。
　では次に、前回お渡しした報告書案から更に修正等を加えたものの説明をさせていただきます。

（前回の報告書案からの変更点について説明）

以上を踏まえ、何かご意見等ございますか。

○事務局　　担い手の養成についてなのですが、誰が行うのかの部分で企画課や子育て総合センターが記載ありますが、それに加え教育委員会も記載した方がいいのではないでしょうか。

○会長　　そうですね。加えさせていただきます。

○委員　　子ども・若者をサポートする警察についてですが、警察のどこが担当しているのか確認した方がよいかと思います。また、図の子ども・若者育成支援の課題と対策についてはA3横長で表示させた方が見やすいと思うので出来ればご対応お願いします。

○会長　　見やすさも含めて事務局と検討しながら修正しようと思います。
　では次に、支援策等の推進手法について検討を進めてまいりたいと思います。これまでの我々の話し合いはただの話し合いで終わらせるのではなく、実際に市の取組に反映させることが必要であると考えております。しかし、子ども・若者に対しての支援を進めるときに根拠が弱いといった部分もあるのでそれを補完すべく条例を制定することも必要になってくるのではないかと考えております。なので、今後の展開等事務局より説明していただきたいと思います。お願いします。

○事務局　　今後としては、ここでまとめていただいた意見を庁内で行う子育て・若者支援推進本部会議や市民委員が参加する子ども・子育て会議に報告させていただきます。そして出来れば年度内には、子育て・若者支援推進本部会議で市としてどのように取り組んでいくのか、条例を制定した方がいいのかを検討し決定しようと思います。条例が必要だという結論に至り策定することになった場合は、来年度から市民の方も加わっていただいた会議体をつくり話し合うことが可能性としてございます。

○会長　　ありがとうございます。では、支援策等の推進手法について検討についてはこれで終わらせていただきます。
　次に、この懇談会の内容を子育て・若者支援推進本部会議にて報告し、推進本部会議で具体的に考えていただきますが、報告書の中では施策を進めるための有効な手法としていくつかの選択肢を述べております。この部分に関して他にご意見ございますか。

（意見等はみられず）

　それでは、このままの選択肢の案を報告書に記載させていただこうと思います。
　では、今回の議題については一通り話が終わりましたが他に何かございますか。

○事務局　　今までの議論を踏まえて、今後市で議論を進めていく上で委員の方々よりメッセージをいただければと思います。

○会長　　では、委員の方々より一言ずつお願いします。

○副会長　　今回、市長含め一緒に応援していただけるのはありがたいと思っております。しかし、何か物事を進めるときには大きな推進力がないと物事はすすまないという事実もあります。そういった点では、具体的に実現にもっていくための旗振りを市長にしていただきたいと期待しています。また健幸まちづくりがどのように懇談会の内容に位置づくのかを一緒に考

えていただけるとより強力なものになるかと思います。

○委員　　部長の言葉ではっとしました。子どもの視点を尊重し、インタビューしたあかりん達にも是非結果を伝え、あかりん達の意見がどこに反映されているのか見てもらった方がいいと思いました。子どもの参画、政策評価に子ども・若者が参加できるように是非進められたらと感じています。ありがとうございました。

○委員　　これまでの議論の中で気づきがあり、自分自身とても勉強になりました。ありがとうございました。長い間色んな形で多摩の子ども達と関わってきた立場から感慨深いものがあり、また切れ目のない支援は難しいと実感しています。子ども若者総合センター（仮称）のように本当に一人も取り残さないように、それぞれの力を信じ、かつ周りの環境を整備していくことが課題として見えてきました。その中で自分がどのように関われるのか考えていきたいと思います。

○委員　　支援という言葉の使い方について上から目線に見えて、支援する側とさせる側が対立した立場にいるように思われますが、子ども・若者の支援というのはいうなれば支援する側の自分育ち・自分育てなんだと思います。支援をしながら自分の至らなさに気づき勉強して成長していくことなんだと。支援策について考えることはもちろんのこと、まずは実行部隊をつくり、行動することが重要であると感じます。また、支援を必要とする方に必要なタイミングで必要なサービスを必要な分量、支援すること、それを念頭に置いて支援することが大事であると感じました。どうもありがとうございました。

○委員　　昭和とかの時代であればお祭りなどの地域の交流が盛んであったと思うが、現在はそういったことが少なくなってきてしまい中々気軽に話せる先がないのが現状です。話せる相手がいるということはとても大事なことであり、それが根付いたものであることということも重要です。中心に人があつまる場があり、そこでどこかしらコミュニティに繋がれるといった流れを継続してできる体制づくりを市長の旗振りの元に行って頂けたらと思います。そしてそのためには子ども・若者にいかにこういった流れがあるんだよと示して安心してあげられるように情報の届け方も重要であると感じました。今までありがとうございました。

○会長　　皆様ありがとうございました。今まで、委員や事務局の皆様のご意見を聴いてまとめたり、多摩市内で活動されている方々にインタビューを行ったりと色々な分野で活躍されている方々の意見を聴いて皆様と一緒に報告書を作りあげることにやりがいを感じていました。また、今まで知らなかったことなどをはっと気づかされる部分もあり、私自身とても勉強になりました。これから皆様の出し合った意見や現場の意見に寄り添ったものを行政の施策が必要であると感じています。
　それでは、最後子ども青少年部部長より一言挨拶いただければと思います。宜しくお願い致します。

○事務局　　まとめていただいた報告書もとに我々としても大任を預かったという気持ちでおります。今はまだ我々は力不足の部分もございますので、よろ

しければ今後もご支援頂けると幸いです。今まで 6 回にわたり集まっていただき、皆様ありがとうございました。

○政策監　　懇談会の中で報告書を作り上げていくといった形式はとても珍しく、私自身とても勉強になりました。体制や根拠といった部分で皆様に話し合っていただいたと思いますが、今回の懇談会では子ども青少年部のみの一部での開催なので今後報告書を市全体で共有し、全体で取り組んでいくことの必要性を強く感じました。また、この報告書に書かれているエッセンスをきちんと取り込んで行っていけたらと思います。ありがとうございました。

６　報告書提出及び写真撮影

７　市長挨拶

○市長　　様々の分野でご活躍されている皆様にお集まりいただきありがとうございました。丁度ここ最近、多摩市では多くのワークショップを行っており、その中でもパルテノンのワークショップが意見をまとめるのが大変でした。そのパルテノンのワークショップをまとめて下さったのも会長でした。「支援」という言葉について話し合いもしましたが、この懇談会に参加してくださった委員の方々は皆子ども・若者一人ひとりに権利があり、尊重すべきだという意識を常に持って議論していただきました。また、元々子ども・若者育成支援推進法も子どもの権利をベースに作られております。それを念頭に置いて、どのような子ども・若者支援を行っていくか重要であると思います。

子どもの権利条例というものがあり、各自治体で先駆的に条例をつくられてきたところがありますが、実態としては条例が有る無しに関わらずどの自治体もひきこもりや児童虐待、いじめなどにしっかりと取り組んでいます。にもかかわらず、子どもが自立するといった前提でありながら自立する機会を奪っていたり、結果的にひきこもりを多く生み出しています。また、子どもだけに関わらず、我々大人自身も学校や会社に属し、その安全な枠の中で「自立している」と認識しているが、実は安定していると思っている基盤は確実なものではなく、もしかすると今後安全ではない世界に身を投じることになるかもしれません。そういった時代だからこそ原点に帰って子ども自身が個として尊重され、若者が将来に夢を見て、失敗してももう一度社会できちんと自立ができ、家族や地域の中で孤立していたとしてももう一度社会全体支えあうように目指していくといった意味では皆様が考えられた「ザ・チャレンジ　たま結び　子どもや若者だれもが自分らしく幸せに生きられる Well being をめざして」はとても素晴らしい目標だと感じます。これを実現するためには委員の方々のまとめた報告書をもとに行政だけでなく、東京都や国、警察や消防、また地域の人々などあらゆるチャンネルの方が向き合って子ども・若者を一つの中心に据えながら育てていくあるいは一緒に苦闘していくことが重要であると感じます。市長としては今回いただいた報告書を受け止め、形にしていかなければならないと考えております。条例として形をつくる場合には、是非委員の方々にも見守り、サポートを引き続きしていただければと思います。

宜しくお願い致します。全６回の懇談会に集まっていただき、ありがとうございました。以上で、挨拶とさせていただきます。

以上